

ポスター報告 2

山田 裕一 障害児者相談支援事業所 発達協働センターよりみち センター長

#報告題目 発達障害当事者参画型専門職教育の意義と実践—当事者主体の研修における「障害」—

#報告キーワード 当事者主体 発達障害当事者会 専門職教育

#報告要旨

0. はじめに

障害者福祉等に関する啓発を行う際に、当事者自らが声を発する機会が多くなってきている。インターネットの普及と共に、メールマガジン、SNS、ブログ等の文字による発信だけでなく、YouTube等の動画公開サイトで動画と音声を組み合わせた発信や、テレビやラジオ番組等の公共の電波を通じて発信することも少なくない。

また、講演会や研修会等で教育機関・支援機関・行政機関等から依頼を受け、講演会等で発言するケースも増えてきている。しかし、当事者自らが発信することで、今まで表出されることがなく、時として隠蔽されてきた当事者の様々な思いが表出されてきた一方、何らかの事情で声を発信することが叶わない当事者の声が更に隠されてしまうことや、当事者が支援機関等に発言をコントロールされることや、当事者自身が受け手の肯定的な評価を得る為に、発信する言葉を取捨選択すること等で、本質的な理解の妨げになるばかりか、更なる誤解や偏見の原因となっている側面もある。

また、講演や研修といった限られた時間の中では「わかりやすさ」が優先される。平易な言葉は受け入れられやすい一方で、「危うさ」と表裏一体であるが、そのリスクについて十分な評価がなされていない現状があると考えます。

更に、深い知見を得ることが必要であるはずの障害者支援や教育に関わる専門職者に向けた、「当事者主体」という前提を踏まえた、より深い考察や気づきに結びつく教育や研修のあり方が問われていると考えます。

本報告では熊本県発達障害当事者会 Little bit を初めとした発達障害当事者グループ等が企画・実践に関わってきた専門職向けの研修の実践事例やプログラムを検証し、専門職者向けの教育や研修の場で明確な目的を設定のあり方や、体系的な企画化に向けて提案を行っ

ていきたいと考える。

1. 熊本県発達障害当事者会 Little bit 等の当事者団体の実践事例

熊本県発達障害当事者会 Little bit（以下リルビットと称す）は 2011 年の設立当初から、一般市民向けの講演会等を企画・実施すると共に、専門機関や親の会等から講演や件数の依頼を受けてきている。リルビットでは以下のような理念と目標の下で研修を企画・実施している。

A. サクセスストーリーに限らない事例を提示すること

「支援によってこんな風にうまくいった」というような、一部の成功事例ではなく、既存の支援ではうまくマッチしない、もしくは社会適応しているかのように見えて実はとても苦悩していることがある等、当事者のどうにもならない現実と向き合わせる。

B. 特定の発達障害当事者のイメージが固定化されないようにすること

最近では専門家の講演だけでなく、当事者が講演をする場合が増えている。しかし、そのほとんどが一人の当事者が一方的に思いを語るスタイルであることが多く、目の前の語り手のイメージイコール発達障害者という固定観念が無自覚に生まれてしまう問題があるので、複数の当事者の実態を同時に伝える等の工夫を行う。

C. 情報を一方通行で伝えるのではなく、参加者同士の知恵の分かち合いを目指すこと

講演会のように話を一方通行で伝えるのではなく、グループワークの手法等を駆使して、参加者同士がそれぞれの想いを伝え合える機会を作ること。

D. 発達障害当事者の可能性や魅力についても伝えること

「困っている人」という文脈のみで語られがちな発達障害当事者の別の側面、持っている強み、豊かな感受性を多様な方法で伝えること。

以上の理念は、従来行われてきた多くの専門職者向けの教育・研修活動に対するアンチテーゼとして生まれた理念であるという。しかし、実際に実践をするにあたり、様々な「障害」が存在する。まずは時間的「障害」である。保育士や精神保健福祉士等、幅広い分野での学びを必要としている専門職は、養成課程において、障害者に関する事柄以外にも広範にわたる知識や技術を身につけることが社会的に養成され、カリキュラムの相当に限られた時間の中で実施することが求められる。また、現職者向けの研修でも、概ね 90 分～長くても 180 分程度の内容に限られ、多くの研修が 120 分以内に終了することが求められる。

リルビットのが企画する研修は複数の当事者や専門職者とクロストーク等を通じて、問題提起を行い、グループワーク等を実施することから、相当な時間が必要になる。

また、グループワーク等を実施することに物理的環境や精神的ハードルから実施を躊躇うケースも少なくない。当日の報告では、当事者参画型研修の実際を紹介し、それらの「障害」を超える意義と方法について皆様と対話したいと考えている。

